イベント報告

金沢初優勝・東大三連覇

インカレリレー種目　2012 年 3 月 11 日 滋賀県竜王町

木村佳司

インカレの歴史に新しい１ページが加わった。女子では金沢大学がインカレで初優勝。男子ではインカレ史上初めてのリレー三連覇を遂げた。

2012 年 3 月 11 日（日）滋賀県竜王町
日本学生オリエンテーリング選手権大会

初めてのビクトリーロードを駆け抜ける
金沢大学女子メンバー

優勝インタビューを受ける金沢大学。嬉しさを爆発させた。
左から１走：横山理恵 ／２走：池嶋美佳 ／３走：帖地 藍

男子リレー結果

1	東京大学	2:10:54
2	一橋大学	2:13:19
3	京都大学	2:16:31
4	名古屋大学	2:17:13
5	金沢大学	2:18:47
6	東京工業大学	2:21:03
7	東北大学	2:28:01
8	新潟大学	2:30:08
9	岩手大学	2:31:15
10	早稲田大学	2:35:57
11	大阪大学	2:40:57
12	北海道大学	2:50:12
13	横浜市立大学	2:53:03
14	筑波大学	2:56:13
15	静岡大学	3:09:366 秒
16	横浜国立大学	3:19:28
17	立命館・関西	3:32:19
18	東京農工大学	3:36:28
19	茨城大学	4:03:49
20	福島大学	4:51:54
	千葉大学	DISQ
	駿河台大学	DISQ
	慶應義塾大学	DISQ

女子リレー結果

1	金沢大学	2:40:12
2	お茶の水女子大学	2:40:18
3	岩手大学	2:44:20
4	東北大学	2:44:57
5	椙山女学園大学	2:50:21
6	相模女子大学	2:50:42
7	横浜市立大学	3:00:37
8	実践女子大学	3:02:11
9	津田塾大学	3:08:04
10	東京農工大学	3:14:40
11	宮城学院女子大学	3:21:20
12	奈良女子大学	3:33:01
13	千葉大学	3:46:15
14	日本女子大学	3:47:44
15	京都大学	3:53:07
16	東京工大・早稲田	4:13:09
17	京都女子大学	6:11:07
	十文字女子大学	DISQ
	筑波大学	DISQ
	岩手県立大学	DISQ

大躍進！金沢大学

女子選手権リレー。2 走でトップに立った金沢大学は、3 走のエース区間で猛追を受ける。前日のミドル種目で 4 位となった、お茶の水女子大学の稲毛が激しく追い上げるも、フィニッシュでは 6 秒差でかわして初優勝を掴んだ。金沢大学女子チームはここまでのインカレ個人種目では目立った結果を残していなかったが、チームメイト全員が平均して高いパフォーマンスを発揮し今回の優勝を掴んだ。メンバー全員で掴んだ栄冠だった。

今回のインカレは難易度の高いテレインが使用された。ガマンのレースが強いられる中、どれだけ 3 名全員が大きく崩れずにレースを進めてゆけた金沢がこのチャンスをモノにしたのだ。

また男子リレーでも金沢大学は 5 位入賞という素晴らしい結果を残している。

この 4 月には New Map で単独大会を開催するという金沢大学。金沢の大躍進は部をあげての取り組みの結果なのかも知れない。

史上初！ 男子リレー三連覇

東京大学が下馬票通りのレースを展開し、史上初の三連覇を達成した。今の東京大学 3 年生は東京が優勝するところしか見たことがないのだ。

三連覇を期待され、見事これに応えた東京大学男子のウイニングラン
左より２走：三谷洋介 /３走：結城克哉
１走：真保陽一

堰切って流れる涙は、三連覇への重圧を感じながらもその道のりは平坦ではなかったことを物語る。

1走よりトップに立った東京大学は2走、3走でも一度もトップを譲ることなく優勝を飾った。3走では2位の一橋大学に詰めよられるが、1走と2走で引き離した 6 分という大差が東京大学を優勝へと導いた。

一橋大学大躍進

2走終了時点で2位グループには、京都大学、一橋大学、名古屋大学、金沢大学が秒差で激しく競り合っていた。この2位争いを制したのは一橋大学。3走の羽野が 3 走最速タイムを叩き出した。

いっぽう、いままでのインカレ入賞の常連校だった東北大学が今年20年ぶりに入賞を逃した。メンバーの入れ替わりが激しい学生クラブにおいて20年間、インカレリレーでの入賞を続けていきたという実績のほうが驚異に値する。

あわやリレー不成立？

今回のリレー競技では、男子選手権クラスにおいて一部の大学のコース割り振りが間違っていたことが競技開始後に発覚した。リレー競技において致命的ともいえるコース配布間違いであった。

「競技不成立」・・・この言葉が実行委員の脳裏を駆け抜けていった。間違い発覚後の実行委員会は悲壮感漂う運営になりかけていた。

その後、実行委員会はこの事実を参加大学に説明し、競技の成立の可否を参加校と裁定委員に諮った。

裁定の結果、競技は成立となった。コースの間違いが競技全体の結果に与えるほど大きなものではなかったというのがその主たる理由である。

あわやリレー競技不成立かと思われたが、結果的には多くの人が納得する形で競技は成立した。この成立によって、インカレを目指して努力を重ねてきた選手や関係者、そして運営者の多くが救われた思いとなった。

明日を創るインカレ

今回、インカレの運営に参加して改めて感じたのは、「インカレが明日のオリエンテーリングを創る」という感触だ。

学生のクラブスポーツとしてその頂点に立つインカレ。そのインカレを目指して学生も運営者も努力する。まさに典型的な学生競技スポーツの形である。

人を惹きつける魅力のあるスポーツは伸びる。これからもインカレが学生を惹きつける限り、オリエンテーリングがスポーツとして継続してゆくだろう。

こうした競技スポーツとしての核たる部分があればこそ、オリエンテーリングを取り巻く様々な環境やバリエーションにも、芯をブレさせることなく対応・発展させてゆくことができるだろう。

年に二回行われるインカレはそれを感じさせる機会を与えてくれる。

（木村佳司）

宙を舞う三谷洋介（東京大学第２走者）